

新規事業採択時評価結果（平成21年度 新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	地域高規格道路 岡山環状道路 市道 藤田浦安南町線	事業区分	地方道	事業主体	岡山市
起終点	自：岡山県岡山市南区藤田 至：岡山県岡山市南区浦安南町	延長	1.6 km		
事業概要	<p>岡山環状道路は、岡山県南地域の岡山市中心部の外郭に環状に位置する延長約40kmの地域高規格道路であり、(市)藤田浦安南町線はこの一部を構成する道路である。</p> <p>この環状道路の整備により、都市部に流入する通過交通などを適切に分散・誘導し、渋滞緩和、事故発生件数の低減を図るとともに、円滑な通行により沿道環境（騒音、大気など）が向上し、また周辺に位置する岡山市中央卸売市場、岡山港周辺の臨海工場の物流拠点との連結の強化が図れ、広域的な地域全体の活性化の一翼を担うことが期待されている道路である。</p> <p>(市)藤田浦安南町線は、岡山環状道路の南西部の国道30号と(一)浦安豊成線を連結する1.6kmの区間において整備を行うものである。</p>				
事業の目的、必要性	<p>①岡山市都市部の主要幹線道路の通過交通の分散、誘導により渋滞緩和を図る。</p> <p>②岡山市都市部の交通事故の減少による交通安全の確保を図る。</p> <p>③岡山市都市部の交通円滑化により沿道環境の向上を図る。</p> <p>④岡山市中央卸売市場、岡山港周辺の工業地の物流輸送の時間短縮、安定した輸送を図る。</p>				
全体事業費	86億円	計画交通量	27,400~30,600台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

- 都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。
- 「岡山市都市ビジョン（平成19年6月策定）」の主要事業に位置付けられ、早期の完成が望まれている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

円滑な事業執行の環境：平成21年3月10日に都市計画決定済み

担当課：道路局 地方道・環境課
担当課長名：吉崎 収

事業評価結果

費用対便益	B/C	4.1	総費用：70億円 （事業費：69億円 維持管理費：1.1億円）	総便益：289億円 （走行時間短縮便益：269億円 走行経費減少便益：14億円 交通事故減少便益：5.6億円）	基準年 平成20年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 2.6 (交通量 -10%)	B/C= 5.9 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C= 4.6 (事業費 -10%)	B/C= 3.8 (事業費 +10%)		
		事業期間変動	B/C= 4.5 (事業期間 -20%)	B/C= 3.8 (事業期間 +20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	国道30号、(一)浦安豊成線の渋滞緩和が図られ、岡山都市部の渋滞損失時間の低減が図られる。 ○渋滞損失時間の削減 2,770万人時間/年(現況H17) → 1,230万人時間/年(将来H42) ○国道30号2箇所の主要渋滞ポイント及び市道部交差点の渋滞が解消 ・国道30号 笹ヶ瀬橋交差点 2,650m(現況H17) → 110m(将来H42) ・国道30号 当新田交差点 1,800m(現況H17) → 0m(将来H42) ・市道 泉田付近交差点 900m(現況H17) → 0m(将来H42)		
		事故対策	◎	死傷事故率の高い周辺道路の死傷事故件数の減少が見込まれる。 ○死傷事故率 国道30号(泉田周辺区間) 383.7件/億台*。 (岡山県平均事故率124.4件/億台*の約3.1倍) 市道部(市道泉田福成線他) 154.6件/億台*。 (岡山県平均事故率124.4件/億台*の約1.2倍) ○死傷事故件数 国道30号青江交差点 12件/年(現況H17) → 5件/年(将来H42) 市道泉田福成線 28件/年(現況H17) → 7件/年(将来H42)		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	○	政令指定都市移行によって設置される南区役所へのアクセスが向上する。		
		地域経済	○	岡山港周辺から岡山ICとのアクセス強化が図れ、11分の時間短縮が図られる。 岡山市中央卸売市場からの生鮮野菜、果物の輸送、隣接する工業地からの製品輸送に時間短縮となるとともに、定時性が図られ、広域な安定した輸送が期待できる。		
		災害	○	1次緊急輸送道路(国道30号)と2次緊急輸送道路((一)浦安豊成線)を結び、また1次緊急輸送道路の国道2号より南部地域の緊急ネットワークを形成する。		
		環境	○	岡山都市部の大気質改善が図れる(CO ₂ 、NO _x 、SPM排出量が約3割削減)。 国道30号の大気質改善が図れる(CO ₂ 排出量が約6割、NO _x 、SPM排出量が約7割削減)。 市道部(市道泉田福成線)の大気質改善が図れる(CO ₂ 排出量が約7割、NO _x 、SPM排出量が約8割削減)。		
		地域社会	○	笹ヶ瀬川、旭川、百間川で分断されている、岡山市南部の各集落地を結び、広域的な連携、交流、地域活性化が図られる。		
	事業実施環境	○	平成21年3月10日に都市計画決定済みであり、これまでの手続きにおいて、事業に対して土地改良区、連合町内会等の周辺住民と合意形成を図っている。			

採択の理由

事業主体である岡山市が実施した評価結果に基づけば、費用対便益比が4.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、渋滞損失時間の低減や現況死傷事故率の低減、笹ヶ瀬川等で分断されている地域間の交流・連携等、当該事業の整備の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。

以上より本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。